

バリア井戸の運転実績

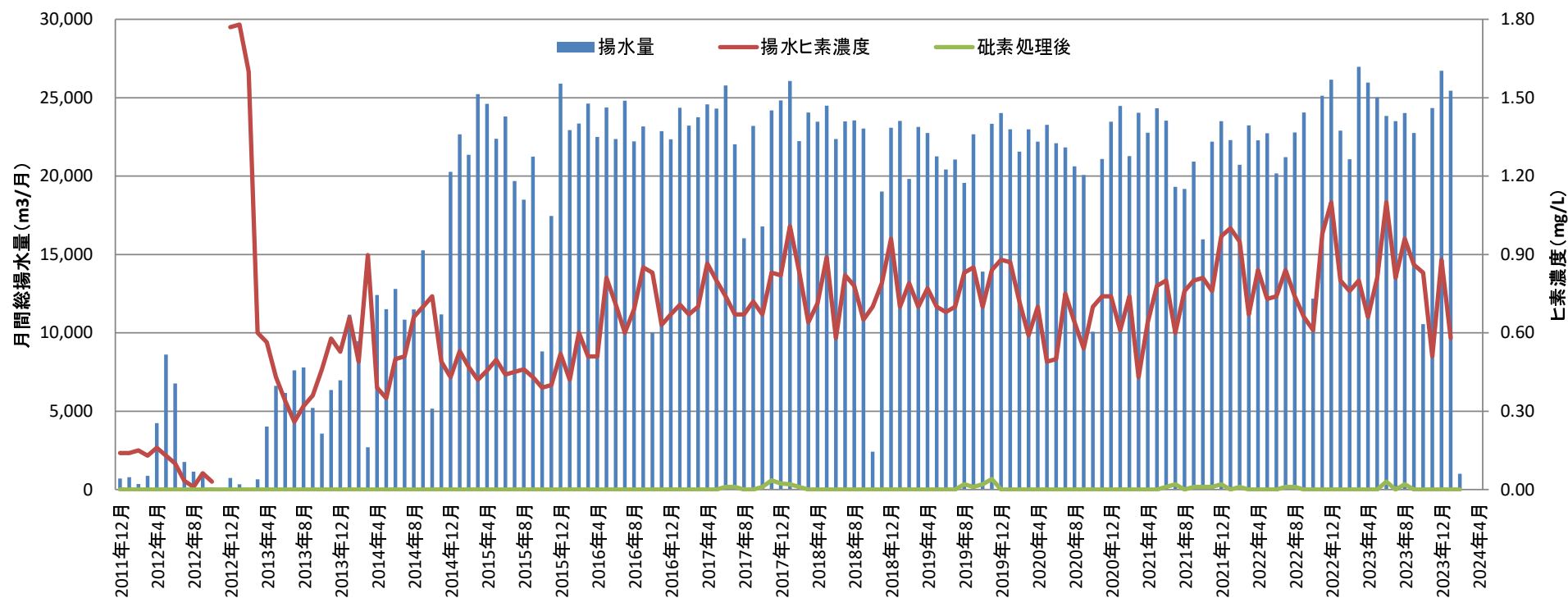
2024年 3月 27日

化成品生産部

北西域バリア井戸揚水処理状況

北西域バリア井戸については、17基の揚水ポンプで、揚水量800m³/日を目標に稼働させ、溶存鉄に起因する配管スケールは定期的な送液配管の酸洗浄で対処している。揚水のヒ素処理は、フィックスオールを使用し、浄化している。

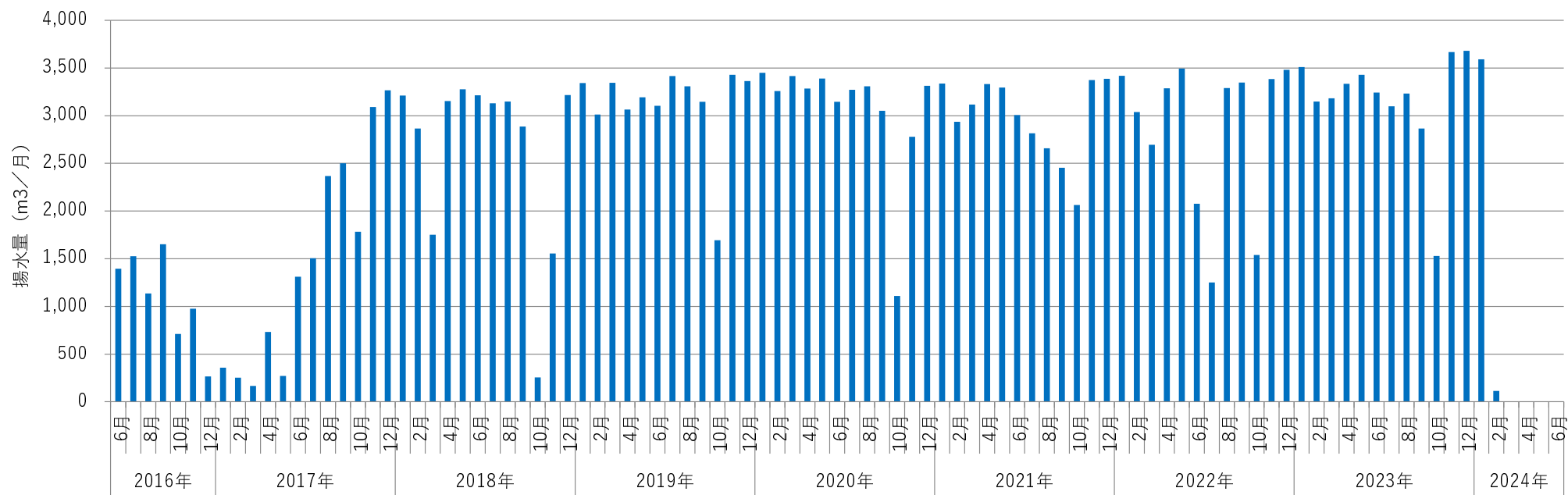
北西域バリア井戸 稼働状況



南東域バリア井戸揚水処理状況

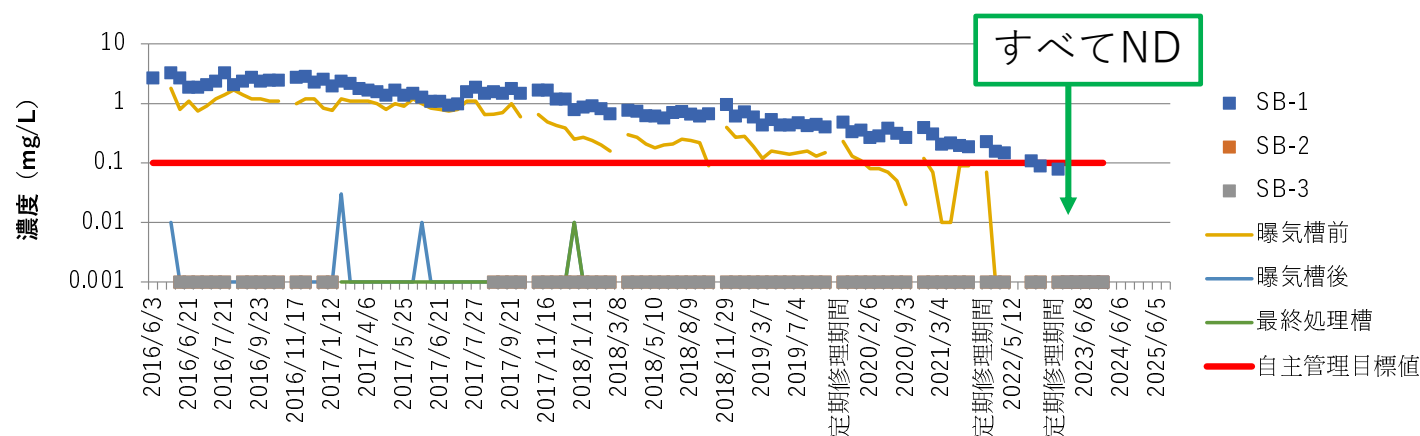
南東域バリア井戸については、3基の揚水ポンプで、揚水量100m³/日を目標に稼働している。2022年6～7月揚水受入槽～沈降槽のスケール除去作業等で揚水停止。発泡成分の減少によると推測されるが、曝気槽での発泡状況が緩和されてきており、消泡剤を添加しなくても、運転を継続できる状況となった。（2023年12月より）

南東域バリア井戸月別揚水量推移



南東域バリア井戸揚水処理状況

ジクロロメタン曝気処理による揚水浄化



1,2-ジクロロエタン 曝気処理による揚水浄化



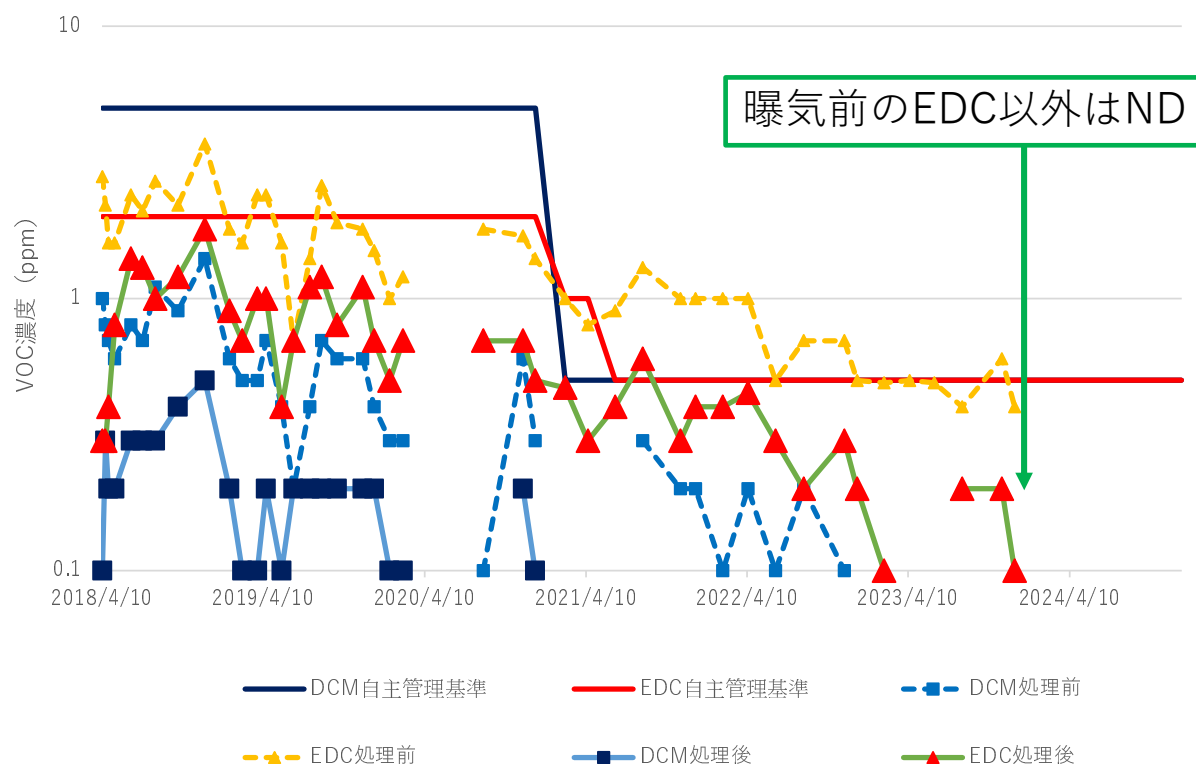
VOC処理は、4基の曝気槽で揚水を浄化し、曝気の排ガス中のVOCは活性炭吸着させている。

揚水中のジクロロメタン濃度は、これまで検出されていたSB-1でも、2023年1月以降検出されなくなった。

1,2-ジクロロエタン濃度も、緩やかではあるが、低下傾向が継続している。2022年1月以降SB-2でも検出されなくなり、揚水井としてはSB-1のみで検出される状況となった。

南東域バリア井戸曝気ガス処理状況

曝気ガス浄化（活性炭吸着）処理状況



ジクロロメタン（DCM）については、2021年からは、処理前でも定量下限（0.5ppm）以下を継続しており、処理後も2021年4月以降、不検出を継続している。

1,2-ジクロロエタン（EDC）についても、揚水中の濃度低下傾向に対応して処理前の濃度低下傾向が見られ、処理後も低下傾向が見られており、最近、処理前でも定量下限（0.5ppm）以下のデータが見られるようになった。

今後のバリア井戸関係設備の運転計画等

- 旧SR跡地周辺追加バリア井戸（5か所）
設備設置完了後試運転（2024年3月目標）～本運転
揚水及びモニタリングの開始・継続
- 既設北西域バリア井戸
揚水及びモニタリングの継続
送液配管酸洗浄方法の改善検討
- 南東域バリア井戸
揚水及びモニタリングの継続
揚水中のVOC濃度低減状況に合った揚水処理設備の再構成